

日本英語教育史学会 会報

286

2018 年 4 月 16 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
e-mail: membership@hiset.jp会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)
ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第267回研究例会報告

2018 (平成 30) 年 3 月 17 日 (土), 真宗教化センター しんらん交流館 (京都市下京区) において第 267 回研究例会が開催されました。参加者は 16 名でした。

例会では 2 本の研究発表が行われました。はじめに、榎本剛士氏 (大阪大学) が「英語教育の歴史性を『教室』から考える」というタイトルでお話しされました。続いて西原雅博氏 (富山高等工業専門学校) による「西洋近代語教授理論の摂取: 文部省官費留学生派遣を通じた摂取内容」の発表が行われました。司会は拝田清氏 (四天王寺大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は榎本氏, ②は西原氏の発表への感想です)。

◇ ◇ ◇

◆①学会の存立理由に関わる問題提起ともとれるご発表をいただきました。ただ、これは同時に歴史研究一般にあてはまる問題で、歴史研究においては現代史の研究がもっとも難しいと言われることと同様に、議論を展開しようとするとどうしても抽象論になり、解答なり、あるいは結論なり、その糸口すら見えないというところに収束してしまいがちです。時間の捉え方も民族・文化によって異なり、それに時間軸という切り方によってメスを入れようとしても、さまざまな設定が可能となって、下手をすると果たして同じ土俵に立って議論を展開しているのかどうかすら分からなくなるということにもなりかねません。本日のご発表は授業でのインタラクションを素材とした談話分析という切り込みでしたが、これが「歴史性」という観点からはどのように捉えられるか、発表者自身の視点でもってぜひおまとめいただき、議論の材料を提供していただければと願っております。

(Dragon)

◆①通史的研究をしている者にとって考えさせられる発表でした。現在さえ、ループする歴史の一つとして考えれば、共時的研究の中にも通時的要素が見られる可能性があり、研究の幅が広がります。様々な中間決定因子も研究の対象となるでしょうね。もとより、歴史的な研究をしていると、限られた時間と空間の中で視野狭窄に陥ったつまらない研究に遭遇します。なので、このような大胆な発想による提言を歓迎いたします。現在の記録装置に残る資料が過去にないことが悔やまれますが、未来の人は、現在に何が欠如していることを悔やむのかなどと空想してしまいました。(insulae flumen)

◆①歴史研究の基本タームである「歴史」や「時間」とは何かについて、「交錯する 2 つ以上の時間軸」というキー概念をもとに、深く考えさせられる刺激的なご発表でした。日本英語教育史学会で、このような根源的・哲学的な問い直しに関わる発表がなされたこと自体が喜びです。ぜひ論文化をお願いします。(みかん舟)

◆①歴史をどう捉えるか、根本的に揺さぶられる思いで発表をお聞きしました。教室を対象とした実証研究を「時間軸の交錯」という視点で見直したとき、より重層的で深みのある実態が浮き彫りになるように思いました。それぞれの時間軸から形成されるものは、なんとなく「文化」や「文脈」という言葉で表してきたものに近いような感想を持ちました。非常に面白いテーマですので、ぜひ継続してお聞かせください。

(Horse)

◆②西洋の近代語教授理論が文部省官費留学生を通じていかに移入、紹介されたかとの観点からのご発表でしたが、その留学の成果がうかがえるのが、資料の点では、神田乃武と岡倉由三郎のみであるとのことながら、取り上げられた 8 名の人物は、それぞれ教員養成に関わる人たちですので、英語教員養成はその所管外であった女高師系は別にするとしても、その教え子たちの回想などからも何らかの資料が得られるのではないのでしょうか。留学の成果が還元されるころは、やはり、その帰朝後の教授内容に反映されると考えますので。また、発表者はこれまでも西洋の近代語教授理論移入について取り上げておられますが、『中外英字新聞』に教授法の紹介を行ったり、自ら欧州における外国語教育の状況を視察に行ったりした磯辺弥一郎のことをお調べいただければと思います。

(Dragon)

◆②明治の英語教授法を専門とする教育者・研究者が欧米に留学した時の視点というものがわかり、とても勉強になりました。ヨーロッパにおける、ラテン語などの古典語より踏襲した教授法がそのような言語と縁もゆかりもない日本において英語教授に導入されていることの桎梏から抜け出すような教授法が確立されればよいと願いつつ、伝統という壁を越えられずにいるのが現状でしょうか。現在、明治より第二次世界大戦前位の日本の言語理論を調べています。ある時期より、科学文法の正確さを評価しつつ、教育面では規範文法に基づいた実用文法を重視する傾向がみられるのが興味深いと感じています。

(insulae flumen)

◆②実に面白い発表でした。インド・ヨーロッパ語族間の近代語教授法と、言語的距離が大きく離れた日本における英語教授法とは自ずと異なる側面があると思います。その点の知見もぜひえて、論文化してください。(みかん舟)

◆②緻密な資料調査にもとづいた、西洋近代語教授理論摂取の実態に迫るご発表を、大変興味深くうかがいました。明治期の官費留学生の動向を見ると、3つの摂取ルートに付随して、英語教授法以外の「教育」専攻留学生も何かしらの役割を果たしているかもしれないという興味を持ちました。ありがとうございました。

(Horse)

<発表を終えて>

榎本 剛士 (大阪大学)

このたび、約 10 年ぶりの例会発表の機会を与えて頂きましたこと、心より御礼申し上げます。また、所謂「正統派」の英語教育史研究とは異なる内容であったにもかかわらず、発表を奨励して下さったことに、本学会の懐の深さをあらためて感じました。

発表の冒頭でも申し上げましたが、私には、「英語教育史」の研究に携わることに関する積年の悩みがあり、それは未だ解決する気配がありません。

- ・自分が明らかにしたいことは、過去の英語教育よりもむしろ、今、教室で実際に起きているコミュニケーションのプロセスである。
- ・英語教育を研究するうえで、「歴史」の次元は不可欠である。



私の英語教育史研究は、これらの問いをいかに統合するか、という問題意識の周りをウロウロしており、今回の発表は、そのための枠組みを模索する営為の「経過報告」のようなものです。

それでも、発表後には『歴史とは何か』をあらためて考える良い機会であった」という大変な難しいコメントを頂戴しました。問題意識の意義を認めて頂きつつ、「歴史性をどのように実証するか」という困難な問いから逃げるな、との叱咤激励を頂いた気持ちです。

ここで授かった航海図を胸に、自分なりの英語教育史研究の船を、また少しずつ、漕いでいきたいと思えます。

<発表を終えて>

西原 雅博 (富山高等工業専門学校)

この度は、京都例会での発表の機会を頂き有難うございました。私は「西洋理論の摂取」→「国内の制度化」→「教授実践の展開」の枠組みにおいて、明治期中学校英語教授実践の複合性を構造的に理解しようと努めてきました。今回の発表内容である明治期文部省官費留学生派遣を通じた近代語教授理論の摂取は第 1 のフェーズに含まれます。これら 3 つのフェーズに関する研究がそれぞれに自己完結的にならず、逆にこれを集約化するような視点として、近代教授学における教育目的・価値の実現の方法として自覚された「音声第一主義」を設けています。この視点を追求することを通じて、日本の英語教授が西洋的理論によって「使える英語」になったかどうかという次元ではなく、人間の発達、人間形成という地平から英語教育実践を考えていくことが私のテーマです。本発表では、子細な事実の紹介に終始した感が否めませんでした。先生方からいただいたご質問への返答を通じて、少しでも上の中心的関心に触れることができたかと思っております。今後も、本学会での活動につなげていけますように研究を継続していきたいと思えます。



全国大会は 5 月 今からでもどうぞ予定を ～第 34 回全国大会 (広島大会) のご案内【続報】～

2018 年 5 月 19 日(土)・20 日(日)

県立広島大学「サテライトキャンパスひろしま」(広島市中区大手町 1-5-3)

第 34 回全国大会については、3 月に京都で開催された理事会でプログラムを決定しました。詳細は別紙をご覧ください。初夏の広島でみなさまとお目にかかれることを楽しみにしております。

>> 今からでもお申し込みください

- ・発表の申し込みは締め切りましたが、懇親会を含む全国大会への参加申し込みは今からでも間に合います。5 月 11 日(金)まで受け付けますので、1 月に会報とともにお届けしたハガキがお手許にある方はどうぞご投函ください。その際、恐れ入りますかご自分で 62 円分の切手をお貼りください。電子メールでのご連絡もお待ちしております。

- ・予定が変わりご参加いただけるようになった方も、やはり郵便か電子メールで実行委員会までご連絡ください。ご都合によりご参加いただけなくなった方も同様をお願いいたします。

)) ご参加の際には必ずご一報ください

- ・大会当日は、受付で発表要旨集・学会誌・会員名簿・名札・領収証等をお渡しします。これらを準備する都合がありますので、ご参加の方は事前にご一報くださるようお願いいたします。

)) 参加費等は事前にご送金ください

- ・すでにお申し込みの方も新たに申し込まれる方も、大会に参加される方は次の費用のうち該当するものを合計し 5 月 11 日 (金) までに大会会計口座へご送金ください。お手数ですが、払込取扱票の通信欄に送金額の内訳をお書きください。

- (1) 大会参加費：一般 1,000 円 (学生会員は無料です)
- (2) 懇親会費：6,000 円

大会会計口座

【口座番号】00930-3-235138 【口座名義】 栞田清 (ハイダキヨシ)

* 学会会費の口座とは異なりますのでご注意ください。

◎ 発表予定者にお願ひ

- ・印刷版の発表資料をお持ちになる場合は、各自で 60 部をご用意ください。
- ・会場にプロジェクトは備え付けられています。パソコンについてはご自分のものをお持ちください。お持ちになれない方は、大会実行委員会にご相談ください。

◆大会関係の連絡先◆

(大会・懇親会への参加申し込み、申し込み事項の変更等)

大会実行委員長 馬本勉

〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 県立広島大学

電子メール：taikai@hiset.jp

* まことに勝手ながら、お申し込みやお問い合わせには
郵便または電子メールをご利用くださいますようお願い申し上げます。

)) 事務局より

(1) 2017 年度第 2 回定例理事会を開催

第 267 回研究例会に先立ち、2018 年 3 月 17 日(土)11 時より例会会場である「しんらん交流館」会議室 E において理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

1. 第 34 回全国大会 (広島大会) のプログラムについて

→実行委員会の提案を受け確定しました。詳細は別紙の通りです。

2. 学会誌について

→学会誌発行の進捗状況について、編集委員長より報告を受けました。5月の全国大会にあわせて刊行の予定です。

3. 2017 年度会計について

→事務局より中間報告をしました。年度末処理ののち、会計監査を経て5月の会員総会で最終的な報告をします。

4. その他

①次期役員体制について検討しました。

②出来先生のご蔵書を会としてお受けする件について、その手順を検討しました。

③学会賞の規程を見直すこととし、原案作成に向けてブレインストーミングをしました。

(2) 名簿原票の返送について

会員台帳の情報を更新するため、4月中旬をめぐり、すべての会員みなさまに「名簿原票」を郵送します。電子版会報の受け取りにご協力くださっているみなさまにもお送りしますので、必ず開封のうえご確認ください。締切までにご返送・ご返信いただいた分については、5月の全国大会時に発行する「会員名簿」に反映させていただきます。

今年も「名簿原票」の発送が遅れましたことをお詫び申し上げます。お忙しい時期にお手を煩わせることとなり恐縮ですが、よろしくご協力ください。

なお、会費の未納分がある方には「会費納入のお願い」もしくは「会員継続のご案内」を同封させていただきます。会計処理の不手際により、事務局からのお願いが遅れたみなさまには、この場をお借りしてお詫び申し上げます。引き続きのご協力をお願い申し上げます。

(3) 新年度の会費について

いつも会費の早期納入にご協力くださりありがとうございます。新年度の会費については、以下の要領でお納めくださいますようお願い申し上げます。

[1] 全国大会に参加される場合

これまでは大会当日にお納めいただいていたのですが、今年度より、受付の混雑と混乱を避けるため《学会誌》と《会員名簿》とともに「会費納入のお願い」をお渡しすることしました。後日、ご都合のつくときにご送金ください。

[2] 全国大会に参加されない場合

大会終了後、新しい《学会誌》と《会員名簿》を「レターパック」でお送りします。その際、新年度分の「会費納入のお願い」を同封しますので、よろしくご協力ください。

なお、2017年度までの会費が未納の方には「会費納入のお願い」のみをお送りします。2018年度分までを納入いただき次第、新しい《学会誌》と《会員名簿》をお送りします。

(文責：事務局)

)) 新入会員

- ◆ 中田 貴眞 (なかた きしん) 大阪府 四天王寺大学
- ◆ 黒川 智史 (くろかわ さとし) 東京都 東京大学大学院 [院生]

)) 英語教育史フォルダ

- ◆ 小篠敏明・河村和也・馬本勉・松岡博信
「1900-1908 年出版の小学校英語教科書 4 種と現行中学校教科書の対応分析」
『日本言語教育 ICT 学会研究紀要第 5 号』 (2018 年 3 月)
- ◆ 松岡博信・馬本勉・河村和也・小篠敏明
「明治末期小学校英語読本 4 種のリーダビリティ分析」
『日本言語教育 ICT 学会研究紀要第 5 号』 (2018 年 3 月)

)) この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 34 回全国大会 2018 年 5 月 19・20 日 (土・日) 広島で開催予定
- ◆ 第 268 回研究例会 2018 年 7 月 21 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 269 回研究例会 2018 年 9 月 15 日 (土) 広島で開催予定
- ◆ 第 270 回研究例会 2018 年 11 月 17 日 (土) 京都で開催予定
- ◆ 第 271 回研究例会 2019 年 1 月 12 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 272 回研究例会 2019 年 3 月 16 日 (土) 京都で開催予定

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日 (9 月発表希望であれば 6 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

EDITOR'S BOX 恩師の話で恐縮ですが、本学会の元会員でもあった故若林俊輔先生が 1990 年にジャパンタイムスから出された『英語の素朴な疑問に答える 36 章』が先月研究社から復刻されました。若林先生に関しては、晩年に理事長を務められていた一般財団法人語学教育研究所においても、その名前を冠した「若林俊輔奨励賞」が今年新設されています。／今月復刻される伊藤和夫先生の著書もそうですが、少し前に英語教育界で活躍されていた先生方の業績に光をあてる動きが出ていることに、歴史に興味を持つ一人としてうれしく思っています。／伊藤先生の受験参考書には高校生の時にお世話になりましたが、英語がとても苦手だった当時、『英語和訳演習 基礎篇』の本の冒頭にあった“To train a dog is not easy.” (のような例文だったと思いますが) を「犬を電車に乗せることは簡単ではない」と誤訳したことがあります。／先週英語教員志望の学生を対象とした授業でこの話をしたところ、「確かに乗せるのは難しいですね」と笑いながら同情してくれました。英語が苦手だった過去の経験も無駄にはならないものだと思ふ次第です。(若)